

令和6年度『地域健康サポーター実習：特別講義

多種多様な人たちと繋がりをもつために必要なこと』の紹介

6月13日（木）3・4限、地域健康サポーター実習「特別講義：多種多様な人たちとつながりをもつために必要なこと」というテーマで、一般社団法人 IINE 代表田村治仁氏に講義・演習をして頂きました。授業の意図は、地域に向かう看護学生としての態度・姿勢、事業担当や地域の方との向き合い方を、深く考える機会とするでした。講義はご自身の事故や主治医からの告知体験、地域活動を通して様々な障がい・様々な困りごとがあることへの気づき、友人の自死、話し合い・互いに理解し・つながることの大切さ、そのために必要な『諦めない心』と『一生懸命になれること探すこと』。演習では、幼稚園児・小中高生（負けず嫌い・運動苦手・スポーツ得居）・高齢者・車椅子使用者等、学生も一緒にスポーツを楽しむために、競技ルール・会場の配慮・ルール作り・学生の役割等を30分間で考え5分間で発表、に挑戦しました。学生の学びは「一括りではなく個々人を知ろうとする努力、自らが知ろうとしなければ何も知ることができない。無知も罪であること」「多種多様な人々とつながるためには相手への共感と理解が大事」「社会の障がいに対する認識を変えたいという意志の強さ」「たった一言の大切さ」「今の自分に何ができるか」自分自身を振り返り客観的に俯瞰してみることの大切さ」「参加者の一人一人のことを考える難しさ」「無意識に自分の上からな目線に気づいた」等。今日の学びは、今後の実習だけでなく、人の生き方として忘れないものになると思いました。（在宅看護学：岡田麻里）



学生たちが話し合う姿や発表する姿を笑顔で温かく見守る田村氏

鋭いご指摘と考えさせられる問いかけ

「ジェスチャー？具体的にどうする？」

「何色を選ぶかにも意味があるよね。」

赤を使う意味はね…」



7つのグループに分かれて、野球・サッカー・バレーボール・ハンドボール・バスケットボール・

ホッケー・ドッジボール、7つのスポーツ大会の企画を考えました。「どうやったらみんなで楽しめるか……」